

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

# 総合東京病院通信

2018.6

Vol. 68

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

総合東京病院通信 Vol.68

●平成30年6月発行

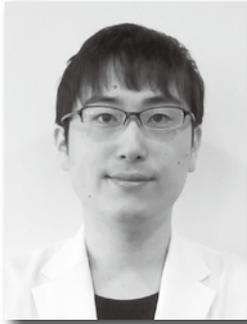
●編集・発行／総合東京病院

〒165-8906 東京都中野区江古田3-15-2

TEL. 03-3387-5421(代)

## 特集

### 改善するかもしれない認知症 特発性正常圧水頭症について

総合東京病院  
脳神経外科

山川 功太

水頭症という言葉の皆様ご存知でしょうか。最近ではテレビや雑誌で“治すことができる認知症”といったキャッチフレーズで紹介されることもあって耳にしたことがある方も多いかもかもしれません。

水頭症が意味することは脳や脊髄に通常存在する液体（＝髄液）が過剰に溜まってしまうということです。もともと髄液は脳で1日500mlくらい産生される一方で、同じくらいの量が血液内に排出され、均衡を保っていると言われています。諸説ありますが、その排出が不完全となり、髄液の産生量が勝った結果、脳の中に水が溜まってしまうというわけです。水頭症を引き起こす原因は様々です。例えば脳腫瘍や脳出

血、先天的疾患で生じるものがあり、これらは画像検査で原因が特定しやすいです。一方で水頭症の原因となる明らかな病気が見つからないものもあります。頭の中に水が溜まりすぎることによってその圧が高まりそうですが、その圧の測定値がほぼ正常であるものを「正常圧水頭症」、このうち上記のごとく原因が不明なものに「特発性正常圧水頭症」と呼びます。特発性正常圧水頭症は高齢者に多く認められ、画像上でこの病気が疑われる頻度は日本の65歳以上の方の0.5～2.9%（10万人あたり250人程度）ともいわれています。

外来には様々な主訴を持つ患者さんが訪れますが、その中で水頭症を疑う症状は認知症（思考がゆっくり）、歩行障害（小刻み歩行）、尿失禁の3つです。これらの症状が全部、あるいは一部が当てはまる場合には外来診察後、頭部画像検査を施行します。画像検査で脳の中に髄液が過剰に存在しそうであれば水頭症を疑います。

先述の症状に悩んで、かつ画像検査



PET-CT装置

## PET-CTがんドック予約受付中

「PET-CTがんドック」 ※総合東京病院の来院申込者

通常料金 108,000円 ➡ 優待料金 86,400円(税込)

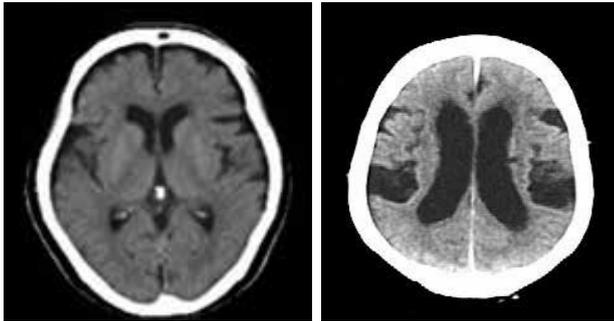
※「脳検査」を追加の場合は、108,000円(税込)になります。

詳しくは、予防医学課へ

☎03-3387-5462

受付時間/月～土(日・祝除く)  
AM 9:00 ~ PM 5:00

## 特集 改善するかもしれない認知症～特発性正常圧水頭症について～



正常な脳(左)と水頭症の脳(右):頭部CT画像

で水頭症が疑われたとき、治療すれば症状を改善することができるかもしれません。ただし水頭症の治療として効果が判明しているものは（現時点では…）外科的治療はありません。

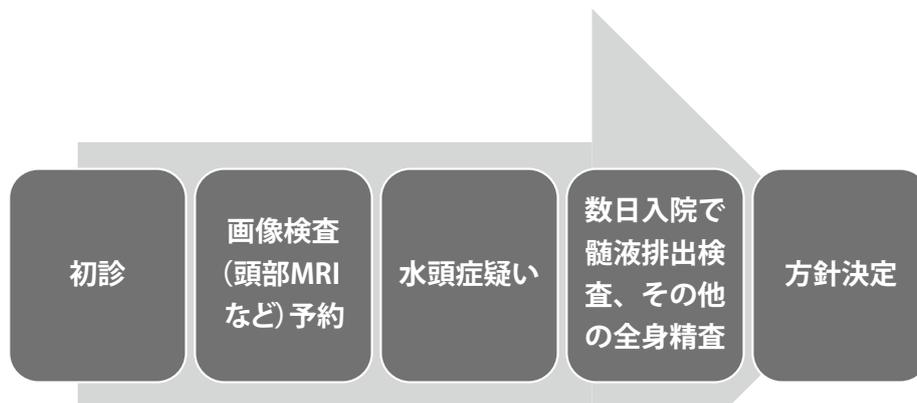
外科的治療はシャント手術というものです。一般的に行う術式に脳室腹腔シャント術と腰椎腹腔シャント術の2つがあります。シャントというのは脳に溜まった過剰な髄液をどこか違う場所に流してあげるという意味です。“どこか”とはほとんどの場合、お腹の中です。つまり頭部から腹部に髄液を流すか、腰部から腹部に髄液を流すということです。

さて、水頭症が疑われる方全員に麻酔をかけてメスを入れて手術を勧めるわけではありません。可能な限り手術の効果がありそうな方に実施すべきであると考えます。それを推測するためには実際に髄液を抜き

て、脳の中の水を減らした状態で、認知症、歩行障害などがある程度改善するかどうかを確かめる必要があります。

こうして最大限、熟考したうえで患者さんに手術を提案することになります。水頭症の診断、治療で最も重要なポイントは、①術前に確定診断することはできない。②術前の段階では手術で絶対的に症状が改善するとはいえない。③手術で最も効果が出やすいのは歩行障害である。ということに集約されます。高齢者に多い特発性正常圧水頭症が疑われる方には本物の認知症も併発している場合があるため、特に認知面については手術で改善するかどうか、術後に経過を見ないと判断できません。また歩行障害は改善しても認知症は改善しないこともあって患者さんの満足度が得られない場合もあります。

このように水頭症の治療は、患者さんの症状の経過、画像検査の結果、髄液を抜いた時の症状の改善度合いを総合的に考慮して、医師と患者さん、ご家族との十分な相談のうえで行うべきものと考えます。診断から治療まで判断が難しい場合が多々ありますが、患者さんのお役に立てるよう提案をさせていただきますのでお気軽にご相談ください。



治療方針の決定